

今後の渇水対策について

令和4年7月8日時点

(現状認識)

旭川水系の主要2ダム(湯原及び旭川ダム)の7月7日(木)午前9時現在の貯水量は、**2,094万 m^3 (20.8%)**です。

7月4日から第1次取水制限(上水10%、工水10%、農水30%)を実施していることにより、貯水量の低下が実施前に比べ緩やかにはなりましたが、今後も無降雨の状況が続き、現在の取水量の確保を続けたと仮定した場合、24日程度で主要2ダムの貯水量が枯渇するおそれがあります。

以上により、少しでも長く継続的に取水を行っていくために、さらなる節水対策(取水制限等)を関係機関が協力して実施しなければならないと考えられます。

(今後の取り組み)

このような状況から、関係機関は相互に他の水利使用を尊重し協力・連携を密にして、以下の取り組みを行います。

1. 各関係機関相互間において、雨量、各ダムの貯水量、河川流況等の状況を把握し情報共有を図る。

また、岡山河川事務所においては、ホームページ等を通じて情報提供を行う。

2. 各関係機関においては、流域住民等への節水意識の高揚を図るため、広報を強化する。
3. ダム管理者は、主要2ダムの合計貯水量がさらに減少することが予想される点を踏まえ、ダムからの補給量を30日以上確保できるよう、利水者は下記のとおり7月4日から開始している取水制限のさらなる強化を行う。

7月12日(火)から利水者は下記取水制限を実施(第2次取水制限)

- ・ **上水道 (実績取水量から)**
岡山市水道 20%、真庭市水道 10%、美咲町水道 10%
- ・ **工業用水 (実績取水量から)30%**
- ・ **農業用水 (許可取水量から)50%**

なお、気象、水象その他の状況変化にもよるが、10日後(7月21日(木)目途)に第3回渇水調整会議を開催し、上記取水制限の今後の方向性について協議及び決定する予定です。